



日本学術会議公開シンポジウム
「陸域生態系変動と土地利用変化の
統合研究をめざして」



平成 21 年 10 月 3 日 (土) 10 時～17 時

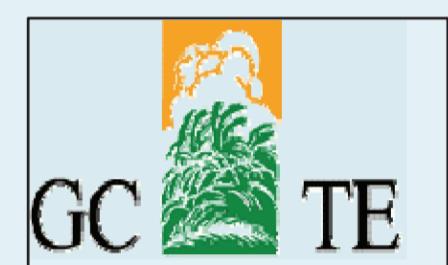
主 催 日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP 合同分科会
共 催 GLP 札幌拠点オフィス、北海道大学 サステナビリティ・ガバナンス・プロジェクト
『アジアの持続可能な土地利用』(SLUAS)プロジェクト、iLEAPS Japan
場 所 日本学術会議講堂 (〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34)
地下鉄千代田線乃木坂駅 青山霊園方面出口すぐ

参加費無料

参加申込不要



GLP (全球陸域プロジェクト) は LUCC (土地利用・土地被覆変化研究計画) と GCTE (全球変化と陸域生態系研究計画) が 2006 年に発展的に統合して発足した国際研究プロジェクトです。大気、水、土地、土壤などの様々な自然資源、生物相、そして人間圏を含む広い意味での「陸域」を対象として、そこに生ずる様々な相互作用や攪乱、人間・環境結合システムがもつ特性や動態などを解明し、関連する諸問題の解決に資することを目的としています。GLP は LUCC と GCTE の成果を活かしつつ、関係する研究の振興と研究コミュニティの組織化に努めており、わが国では北海道大学内に GLP 札幌拠点オフィスが置かれ、陸域システムの脆弱性、回復力、持続性に関する研究の世界的な中心となっています。本シンポジウムは、GLP に関する研究のこれまでの成果と現況を紹介するとともに、関係する広範な研究者間の相互理解と連携を深め、GLP の発展を支援することを目的としています。



プロ グ ラ ム

[総合司会]

尾藤章雄 (山梨大学教育人間科学部)

開会あいさつ 氷見山幸夫 (日本学術会議連携会員、北海道教育大学教育学部)

○開催趣旨と GLP 研究プロジェクトの概要

占部城太郎 (東北大学大学院生命科学研究科)

○日本及びアジアにおける GLP 研究 (英語)

Ademola Braimoh (北海道大学サステナビリティ学教育研究センター)

○土地システムに関わる人間一環境研究 (英語) Dennis Ojima (*The H John Heinz III Center for Science, Economics, and the Environment*)

○生態系ネットワークの崩壊と再生 山村則男 (総合地球環境学研究所)

○流域環境の質と環境意識の関係解明 : 概念的・方法論的アプローチ

吉岡崇仁 (京都大学フィールド科学教育研究センター)

○アムール川流域の土地利用変化がオホーツク海・親潮域の海洋基礎生産に与える

影響評価 白岩孝行 (総合地球環境学研究所)

○温暖化するシベリアの自然と人 檜山哲哉 (名古屋大学地球水循環研究センター)

○インドネシアの泥炭・森林における火災と炭素管理プロジェクト

大崎満 (北海道大学大学院農学研究院)

○「日本における里山里海サブ・グローバル評価」進捗状況について

中村浩二 (金沢大学環日本海域環境研究センター)

○地球地図プロジェクトについて

乙井康成 (国土交通省国土地理院地理調査部)

○自然と人間の持続可能な共生と GLP 氷見山幸夫 (北海道教育大学教育学部)

総合討論 春山成子 (日本学術会議連携会員、三重大学生物資源学研究科)



泥炭林の火災跡地 (インドネシア)



インドネシアの激しい森林伐採と農地開発



地球地図 全球の土地被覆分類図

© GSI, Chiba University, Collaborating Organizations